

科目名	現代社会と福祉Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	伊東 良輔		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	視覚障害歩行訓練士		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	社会福祉士の役割を理解し、他者へ説明することができる 介護保険制度、障害者支援制度の利用手続きとサービスを説明できる。 その他の社会保障制度の概要について説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会福祉士として福祉を学ぶ意義を自らの言葉で説明することができる。	
		○				社会福祉に関する基礎的知識を身に付け、実践現場で活躍できるようになる。	
				○		社会人として必要な態度や言葉遣いを意識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	現代社会と福祉 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	①介護保険制度にかかわる組織とその役割					
	2	①介護保険制度のゆくえ					
	3	①障害者の自立					
	4	①障害者自立支援制度創設の目的と動向					
	5	①障害者自立支援制度のしくみ(1)					
	6	①障害者自立支援制度のしくみ(2)					
	7	①障害者自立支援制度にかかわる組織と役割(1)					
	8	①障害者自立支援制度にかかわる組織と役割(2)					
	9	①障害者福祉施策のゆくえ					
	10	①人々の人権を擁護する制度(1)					
	11	①人々の人権を擁護する制度(2)					
	12	①保健医療にかかわる諸施策					
	13	①医療にかかわる法と諸施策					
	14	①生活を支える諸制度のあらまし					
15	①高齢者・障害者の住生活を支援する制度						
評価方法	授業参加意欲及び貢献度と期末試験を実施し、総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	授業参加意欲・貢献度				○		50%
履修上の注意							

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	馬場 一美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所にて相談員		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	福祉の相談援助現場での社会福祉士、ソーシャルワーカーの役割や意義を理解を深める。ソーシャルワークの概念の歴史的発展過程を学び、実践的なソーシャルワークのために必要な専門的な知識・倫理などについても理解を深める、包括的支援法について教授する。現在の社会的問題について関心を高め、今必要とされるソーシャルワークの役割について知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		ソーシャルワークの方法と技術について、様々な場面での援助方法を学び、説明できる	
	○	○		○		権利擁護や倫理観について事例などをもとに理解を深め、内容を説明できる	
	○	○		○		多職種連携の重要性について理解をし、様々な職種との関わりを説明できる	
	○	○		○		専門職としての具体的な職務内容について学び、具体的に説明ができる	
	○	○		○		ソーシャルワーカーとしての倫理観と権利擁護について内容を理解し説明ができる	
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク(ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション(科目ガイダンス)					
	2	ソーシャルワークの方法と技術①個人や集団への援助方法			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	3	ソーシャルワークの方法と技術②地域を対象とする援助方法			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	4	ソーシャルワークの方法と技術③援助の展開と過程			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	5	ソーシャルワークと権利擁護			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	6	ソーシャルワークの価値と倫理			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	7	多職種連携とソーシャルワーカー①DVD視聴			DVD視聴後レポート提出		
	8	多職種連携とソーシャルワーカー②地域における多職種連携			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	9	多職種連携とソーシャルワーカー③ケースカンファレンスと地域ケア会議			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	10	専門職の意義と役割①社会福祉士			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	11	専門職の意義と役割②精神保健福祉士			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	12	福祉の現場					
	13	福祉の現場			体験後レポート提出		
	14	ソーシャルワークの現場とこれからの社会福祉					
15	後期の振り返り及び確認						
評価方法	①宿題やレポートを数回実施する。②定期テスト(筆記)を実施する。③出席や授業への関心・意欲・態度などを勘案し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		15%
	グループワーク・発表	○	◎		◎		15%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助演習Ⅱ					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	馬場 一美	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所にて相談員として勤務	
対象学科・学年	福祉心理学科1年					
授業概要	本演習は「相談援助演習Ⅰ」で議論・考察してきた内容をふまえ、まずはその具体的な展開について理解・把握していくことになる。その上で、現場での応用を見据え、さまざまな事例を通して、利用者がその有する能力に応じて尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、総合的かつ包括的に援助していくソーシャルワーカーの役割について理解を深めることをめざす。					
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○	○	○		相談援助の実際や高齢者の特徴を体験を通して理解する。
	○		○	○		基本的な介護技術を学び、注意点について演習を通して理解し、実践できる。
	○	○		○		実習の記録作成の前段階として、授業レポートを作成でき、期限通りに提出することができる。
	○	○		○		ソーシャルワークの展開過程についてより深め、相談援助の専門性について実践的に習得することができる。
テキスト・教材 参考図書	・株式会社みらい「ソーシャルワーク演習ワークブック」 ・中央法規出版株式会社「相談援助演習教員テキスト」					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	夏季休暇中の自主実習振り返り①			活動報告書を準備しておく	
	2	夏季休暇中の自主実習振り返り②			活動報告書を準備しておく	
	3	高齢者とその家族への相談援助(居宅介護・施設介護)			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと	
	4	障害者とその家族への相談援助			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと	
	5	児童とその家族への相談援助			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと	
	6	外部研修/地域福祉における相談援助業務について(事前準備)			配布プリントを読んでおくこと	
	7	外部研修/地域福祉における相談援助業務について(講演会参加)			指定テキストを読んでおくこと	
	8	外部研修/地域福祉における相談援助業務について(振り返り)			指定テキストを読んでおくこと	
	9	相談援助実習の実際から援助について学ぶ(報告会参加)			配布プリントを読んでおくこと	
	10	相談援助実習の実際から援助について学ぶ(報告会参加)			指定テキストを読んでおくこと	
	11	コミュニケーション演習①言語非言語的コミュニケーション事例検討			指定テキストを読んでおくこと	
	12	コミュニケーション演習①言語非言語的コミュニケーションGW			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと	
	13	介護の基礎を学ぶ/介護実技オリエンテーション			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと	
	14	自主実習について(長期休暇中予定)			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと	
	15	施設見学事前学習①/施設見学に向けて各事業所の役割を理解する			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと	
	16	施設見学事前学習②/施設見学に向けて各事業所の役割を理解する			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと	
	17	介護実技演習①/杖歩行介助・移乗及び移動支援			配布プリントを読んでおくこと	
	18	介護実技演習②/杖歩行介助・移乗及び移動支援			配布プリントを読んでおくこと	
	19	介護老人福祉施設「月隈愛心の丘」見学訪問			配布プリントを読んでおくこと	
	20	介護老人福祉施設「月隈愛心の丘」見学訪問			配布プリントを読んでおくこと	
	21	施設見学振り返り学習①/利用者との関わりについて振り返り			見学のしおりを読んでおくこと	
	22	施設見学振り返り学習②/利用者との関わりについて振り返り			見学のしおりを読んでおくこと	
	23	介護実技演習③/車椅子介助・着脱介助			配布プリントを読んでおくこと	
	24	介護実技演習④/車椅子介助・着脱介助			配布プリントを読んでおくこと	
	25	介護実技演習⑤/食事介助			配布プリントを読んでおくこと	
	26	介護実技演習⑥/食事介助			配布プリントを読んでおくこと	
	27	介護実技演習⑦ベッドメイキング			配布プリントを読んでおくこと	
28	介護実技演習⑧ベッドメイキング			配布プリントを読んでおくこと		

科目名	交流ゼミⅡ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	馬場一美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	福祉心理科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。	
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。	
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。	
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。	
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介					
	2	グループ内でのレクリエーション					
	3	グループ内でのレクリエーション					
	4	グループ内でのレクリエーション					
	5	グループ内でのレクリエーション					
	6	グループ内でのレクリエーション					
	7	グループ内でのレクリエーション					
	8	グループ内でのレクリエーション					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				○		100%
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。						

科目名	手話						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	井形 美子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	手話奉仕員養成講座講師歴20年(現在も講師として活動中)		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	聴覚障がい、コミュニケーション問題に始まるが、手話は長い間、好奇と異端の目でみられ、ろう教育現場における手話排除という事情も加わって、聴覚障がいに対する認識は、手話蔑視の思想が先行し、聴覚障がいそのものへの認識が後からついてきた観がある。聴覚障がい者についてを理解し、スムーズにコミュニケーションを図れる事を旨とする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					聴覚障がい者と「見ることば」としての手話を学び、手話の特徴を選択することができる。	
	○					聞こえない人の呼称とコミュニケーション手段を説明することができる。	
	○					耳の構造を学び、聴力低下になることと障がいになる原因を説明することができる。	
			○			聴覚障がい者についてを意欲的に配慮することができる。	
		○				手話で自己紹介を表現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	「新・手話ハンドブック」三省堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	手話を効果的に学ぶために / 授業の際に必要な挨拶の手話表現			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(0.5時間)		
	2	手話とろう者 / 指文字表現			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	3	ろう教育 / 数字手話表現			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	4	聴覚障がい者の生活上の不便な点 / 自己紹介・挨拶の手話表現			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	5	ろう者の職業 / 人間関係の手話表現			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	6	ろう者への情報保障 / 年月・日時の手話表現			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	7	ろう者とのコミュニケーション保障 / 聴覚障害者生活について			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	8	聴覚に障がいがおきる仕組み / 場所の手話表現			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	9	手話の歴史 / 仕事の手話表現			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	10	手話単語の成り立ち / 主な名詞①の手話表現			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	11	聴覚障がい者と接する際の心構え / 主な名詞②の手話表現			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
	12	自己紹介表現(1) 復習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)		
	13	自己紹介表現(2) 演習評価 / 趣味の手話表現			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)		
	14	聴覚障がい者とコミュニケーション手段			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0.5時間)		
15	感想文作成 / 正試験出題範囲の説明 / 指文字表現復習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)			
評価方法	(1)手話発表(演習)を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		表現発表(実技)			◎		20%
		定期試験(筆記)	◎	○			80%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験(筆記)の受験資格を与えない。						

科目名	レクリエーション II						
科目名(英)	recreation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田譲二		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	福岡県レクリエーション協会にて指導員		
対象学科・学年	福祉心理科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。レクリエーションは、コミュニケーションの手段の一つとしての働きがあると同時に、協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義: △	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる	
		○		○		レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる	
		○		○		コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる	
テキスト・教材 参考図書	プリントによる資料配付						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	レクリエーション支援について(理論)					
	2	レクリエーションの素材の体験(ゲーム)					
	3	レクリエーションの素材のアレンジ方法(ゲーム遊び)					
	4	信頼関係づくり・ホスピタリティ(理論)					
	5	レクリエーションの素材体験 (創作活動)					
	6	グループワーク・トレーニング① (素材別遊び創作)					
	7	グループワーク・トレーニング② (素材別遊び創作)					
	8	グループワーク・トレーニング③ (素材別遊び創作)					
	9	楽しむための目標設定について(理論)					
	10	コミュニケーションについて体験活動(説得・納得)					
	11	レクリエーションの素材の体験 (折り紙の世界)					
	12	レクリエーションの素材の体験 (伝承あそび①)					
	13	レクリエーションの素材の体験 (伝承あそび②)					
	14	レクリエーションの素材体験 (思い出づくりのレクリエーション)					
	15	レクリエーション II のまとめ(理論)					
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技演習	○	○		◎		50%
	授業中の課題(個人)		◎		○		30%
	授業中の課題(グループ)	○	◎		○		20%
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						

科目名	自己表現Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岡山直之		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美術家歴35年(現在も活動中)		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	表現を通して他者との関係性の構築を学ぶ(クラス全体)						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自分の意見を発言でき他者の意見も聞くことができ、話し合いができる	
		○	○	○		自分の役割を理解し、全体の中でその役割を果たすことができる	
	○	○	○	○		表現作品の制作発表を通して、自分のことを表現できるようになる	
	○	○	○	○		表現作品の制作発表を通して、自分自身に自信を持てるようになる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	クラス全体で作品を作るにあたってのオリエンテーション				表現作品についてイメージする	
	2	発表作品に対しての話し合い①					
	3	発表作品に対しての話し合い②				役割分担について考えておく	
	4	発表作品に対しての話し合い③(役割分担)					
	5	制作および練習①				材料や制作に関するものは事前に準備する	
	6	制作および練習②					
	7	制作および練習③					
	8	制作および練習④					
	9	全体通し稽古①				自主練習を促す	
	10	全体通し稽古②					
	11	制作および練習⑤					
	12	リハーサル①					
	13	リハーサル②					
	14	発表					
15	振り返り、話し合い、レポート作成						
評価方法	①作品(表現活動)を作成し発表する ②話し合い、振り返りのレポートを作成する 以上を下記の観点で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	◎		◎		50%
	作品発表	○	◎	◎	◎		50%
履修上の注意	欠席が5回以上になる場合は単位を与えない						

科目名	グローバルシティズンベーシックⅡ						
科目名(英)	Giobai Citizen Basic						
単位数	1単位	時間数	8コマ	担当者	馬場 一美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	(1)充実した人生を送る人たちの考え方にたくさん触れる(2)力のあるメッセージにたくさん触れる。(3)歴史世界の動き、日本の課題、若者の意識などデータや情報と向き合う。(4)先輩やきらすめーとたちの考え・意識に触れ、自分自身を振り返る。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					考えることの大切さを知る。	
	○	○				自分の言葉で伝える大切さを知る。	
		○		○		目標の大切さ、志の大切さを知る。	
				○		行動する大切さに気づく。	
テキスト・教材 参考図書	GCBⅡ 学生用テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと志			振り返りレポート作成		
	2	なぜ志を立てることが大切なのか			振り返りレポート作成		
	3	自己を知る			振り返りレポート作成		
	4	伝える力を学ぶ(1)			振り返りレポート作成		
	5	伝える力を学ぶ(2)			振り返りレポート作成		
	6	与えられた一度の人生に感謝し、心高く生きる			振り返りレポート作成		
	7	自己の大切さと責任を自覚する			振り返りレポート作成		
	8	GCBⅡを受講して、感じたこと、気づいたこと、学んだこと			振り返りレポート作成		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題でレポートを作成し提出する(8回) (2)グループワークに参加し自分の考えを発現する(グループワーク時) (3)3分の2以上のの出席をすること。授業態度が著しく悪い(居眠りや私語)場合は出席とみなさない場合もある。 成績評価はR評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○		◎		30%
	発表・作品	○	○		◎		20%
	出席状況				◎		20%
履修上の注意	レポートの提出期限を守ること 3分の2以上のの出席をすること。授業態度が著しく悪い(居眠りや私語)場合は出席とみなさない場合もある。成績評価はR評価とする。						

科目名	相談援助実習指導 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	馬場 一美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所にて相談員		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年						
授業概要	社会福祉援助専門職として求められる価値、知識、技術を総合的に学習し、実習に備えることが主たる目標である。 高齢者の理解、実習施設の理解を主とし、次年度の相談援助実習Ⅱに繋げていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		相談援助実習の意義について説明できる。	
	○	○		○		対象者の抱える生活課題や思いを理解する。	
	○	○		○		相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術を体得する。	
	○	○		○		実習に必要なとされる基本的態度を示すことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	相談援助実習とは/学科オリエンテーション					
	2	相談援助実習位置づけ、相談援助実習ガイドラインの基本的な考え方				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	3	相談援助業務について理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	4	実習記録の書き方①				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	5	高齢分野の理解				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	6	各専門職との連携のあり方を理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	7	高齢者施設見学に向けての事前学習①				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	8	高齢者施設見学に向けての事前学習②				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	9	相談援助実習報告会を聴講しての振り返り				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	10	高齢者施設見学に向けて事前学習(施設概要を理解する)				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	11	高齢者施設見学の振り返り				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	12	相談援助実習、各実習施設の理解①				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	13	相談援助実習、各実習施設の理解②				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	14	記録の書き方②				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	15	事例検討①				配布した資料を確認しておくこと	
	16	事例検討②				配布した資料を確認しておくこと	
	17	認知症を抱える当事者とその家族の思いを理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	18	認知症を抱える当事者とその家族の思いを理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	19	認知症高齢者の関わり方について理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	20	認知症の診断と要介護認定について				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	21	介護保険制度について振り返り及びテスト				配布した資料を確認しておくこと	
	22	高齢者の疾患と看取り①				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	23	高齢者の疾患と看取り②				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
24	後期授業の振り返り及び相談援助実習に向けての課題整理				配布した資料を整理しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)実習報告会を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出	○	○		◎		50%
	小テスト	○	◎				40%
	出席状況・態度				◎		10%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合、相談援助実習を実施することができない。 本科目がD評価の場合、社会福祉士の受験資格取得不可となる。						

科目名	地域福祉の理論と方法 II						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高崎修一		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	民生委員・児童委員として地域福祉を推進		
対象学科・学年	心理福祉学科1年						
授業概要	地域福祉の実践に関する項目の授業となる。法制度やサービス体系、地域福祉に関わる人材、関係機関・団体等の学習をすることにより卒業後の将来に備える。専門職として地域福祉の推進に如何に関わってゆくかまたどのようにしてフォーマル、インフォーマルサービスに関わるのかなどを学ぶ。また最近の動向として前期と重なるところはあるが福岡ライフレスキュー事業、貧困支援ネットワークふくおかなどの実践事例を紹介する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					地域福祉の実践に備える。	
		○				実践的知識を身につけ、それを活用できるような人材を目指す。	
				○		授業に対する熱意、将来地域福祉にどのように関わってゆくのかを期待する。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルバ書房の「よくわかる地域福祉」5版 ・自己作成プリント、参考図書「コミュニティソーシャルワークの理論」大橋謙策先生著						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	地域福祉の政策と行政組織				5章プリント	
	2	地域福祉に関する法制度 NPO法、日常生活自立支援事業(DVD)				同上	
	3	地域福祉に関する法制度 成年後見制度 地域保健・医療、生涯学習				同上	
	4	共同募金 5章小テスト				同上	
	5	地域福祉のサービス体系: 情報提供・相談体制、福祉ニーズの発見				6章プリント	
	6	地域福祉のサービス体系: ケアマネジメント、予防的サービス、環境改善S				同上	
	7	地域福祉のサービス体系: 在宅サービス、施設サービス、インフォーマルS				同上	
	8	地域福祉のサービス体系: 当事者活動、NPO活動 6章小テスト				同上	
	9	地域福祉に関わる方法: コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルサポート ネットワーク、ボランティアコーディネーター				7章プリント	
	10	地域福祉に関わる方法: 地域組織化、間接援助技術、福祉教育				同上	
	11	地域福祉の人材: 主体と担い手、コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター				8章プリント	
	12	地域福祉の人材: 民生委員・児童委員、専門職、ボランティアに関して				同上	
	13	地域福祉に関わる機関・団体: 社協、社会福祉施設、行政機関				9章(社協DVD30分程度)	
	14	地域福祉に関わる機関・団体: SHG, 当事者組織、ボランティアセンター				同上	
15	福祉のまちづくり: 福祉コミュニティ、ADA法、ユニバーサルデザイン等				10章プリント		
評価方法	5章、6章に関して30分～40分程度の50点満点の小テストを行い、あわせて100点満点の採点をおこなう。正試験100点満点のテストとの平均点にて総合評価を行う。但し正試験が60点以上の者が評価対象となる。評価基準は当校の基準にて5段階評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	正試験		○				45%
	小テスト		○				45%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は正試験の受験資格を与えない。						

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者施設の立ち上げやケアマネジャーとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理科 1年						
授業概要	現在の日本の象徴とも言える「少子高齢社会」の実情を理解し、来たる2025年にむけて福祉の専門職として知っておくべき事項を学ぶことで、社会福祉士として地域社会で活躍するための準備をし視野を広げる。 高齢者支援の分野について興味を持ち将来の進路決定の参考となるようなタイムリーな情報を知ることができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護保険制度の成り立ちや実情を知り、考えや意見を述べるができる。	
	○	○		○	○	生活の豊かさや平和について考え、相手の立場に立つ・尊厳の保持を意識して過ごすことができる。	
	○	○		○	○	高齢者が生きてきた時代を知り、その内容を今後の実習に活かせるようになる。	
	○	○		○	○	命の尊さや人権について学び・考え・行動することができる。	
	○		○	○		実習への心構えができる。	
テキスト・教材 参考図書	◎『よくわかる高齢者福祉』 直井道子・中野いく子 編 ミネルヴァ書房 ○時事話題 ○介護保険関係資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・アンケート記入			この科目の注意事項を伝えます		
	2	知識チェック 解答解説 その1			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	3	知識チェック 解答解説 その2			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	4	これまでの自分を振り返る			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	5	セルフライフプラン ～「生きる」とは？ 当たり前の暮らし			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	6	11月11日は何の日			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	20xx年問題			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	高齢者福祉の入り口 と 専門用語			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	老化・エイジングについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	生活とは？ QOLとは？			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	12月上旬の5日間			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	介護・福祉について 支援の理念と価値			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	高齢社会対策基本法 理念とソーシャルワーク			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	ソーシャルワーカーの倫理綱領			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
15	まとめ 振り返り						
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※定期試験の解答欄に空欄があった場合は、1つにつき5点の減点とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト・レポート	◎	○				10%
	グループワーク・発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	教育心理学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大黒剛		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	発達臨床心理士		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	人間が学校へ行き、勉強をするのは社会性と共に思考力を身につけるためであり、社会福祉の「人材」として求められる「問題解決能力」を培うためには学習して行き続けることが重要であることを理解できるようにする。さらに、教育者になるために自分自身がどのように自分を見つめ、自分を成長に導けば良いかを考えるきっかけとする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		△		教育とは何かを理解し、概要を説明することができる。	
	○	○		△		学校教育において勉強をする意味は何かを理解し、レポートとして又草にすることが出来る。	
		○		△		法律や制度、歴史等を理解し、自分の知識を広げることができ、考察力が向上する。	
		○		△		現代の子どもたちの置かれた状況に関心を持ち、自ら調べ、説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『保育のための教育原理』垂水直樹・金俊華・大間敏行・三木一司著 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「教育」とは？教育を学ぶ意義～イントロダクション			あなたがこれまで受けた印象的な授業について考えておくこと。		
	2	教育心理学の歴史と教育方法について。			教科書内の指定されたページを読んでおくこと。		
	3	『伝える動画』作成オリエンテーション①			How to物の動画を探しておくこと。		
	4	『伝える動画』作成オリエンテーション②			どのような動画を作成したいか、考えておくこと。		
	5	子どもの特徴と学習プログラム(発達心理学的視点)			教科書内の指定されたページを読んでおくこと。		
	6	動機付けと学習意欲			モチベーションが下がってやる気が起きない時に、どのようにやる気を出すか考えておくこと。		
	7	古典的条件付けと学習理論			教科書内の指定されたページを読んでおくこと。		
	8	記憶のメカニズム			忘れてくても忘れられない出来事はないか、エピソードが語れるようにしておくこと。		
	9	授業の心理学① 授業学習の種類			教科書内の指定されたページを読んでおくこと。		
	10	授業の心理学② 授業学習の種類つづき			教科書内の指定されたページを読んでおくこと。		
	11	教育評価 教育評価の種類とその使い道			教科書内の指定されたページを読んでおくこと。		
	12	パーソナリティーの理解 性格			自分の性格とはどんな性格か、説明できるようにしておくこと。		
	13	集団と個人の心理学 自分は他人からどのように見られているか。			自分は他人からどう見られているのか、想像しておくこと。		
	14	日本と世界の教育方法の比較。			欧米諸国と日本の教育の違いについてリサーチしておくこと。		
15	まとめ			教科書とノートを熟読して、テストに関する質問を考えておくこと。			
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)レポートと調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)科目試験の対象となるため定期試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	試験	◎	◎		◎		70%
	グループワーク	◎	◎		◎		20%
	小テスト・レポート	○	◎		◎		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、評価の対象としない。レポート2冊を提出しなければ科目試験を受験できない。						

科目名	教育カウンセリング論 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	富永 理恵		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	フリーランスでキャリアコンサルタント・心理カウンセラーとしてカウンセリングに従事		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	ここ数十年で、情報化社会は発達期から成熟期を迎えつつあり、「SNSを通してのコミュニケーション」が「生身のコミュニケーション」を凌駕しつつあり、「生身のコミュニケーション」より「デジタルコミュニケーション」に身を置く時間が長い。「合理的で便利」な反面、「生身の人間としてのつながり」が希薄になってきていることは否めない。そのような背景を踏まえ、かつては当たり前だった「対ヒトとどう関わっていくか」を改めて学んでいく。「基礎」の部分より「実践」を重視し、言語・非言語コミュニケーションのワークショップ、ロールプレイを主にすることで、「生身のコミュニケーション」を体感・実感させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		「ピアヘルパー」とは何か、その必要性を理解できる。	
	○	○		○		「構成的グループエンカウンター」を理解できる。	
	○	○		○		「構成的グループエンカウンター」を日常で活用できる。	
	○	○		○		「構成的グループエンカウンター」をリーダーとして展開できる。	
テキスト・教材 参考図書	ピアヘルパーワークブック・同ハンドブック(日本教育カウンセラー協会 編)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・オリエンテーション ・「ピアヘルパー」とは					
	2	構成的グループエンカウンター リーダー体験グループ分け・内容打ち合わせ				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	3	構成的グループエンカウンター リーダー体験 1				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	4	構成的グループエンカウンター リーダー体験 2				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	5	構成的グループエンカウンター リーダー体験 3				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	6	構成的グループエンカウンター リーダー体験 4				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	7	構成的グループエンカウンター リーダー体験 5				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	8	構成的グループエンカウンター リーダー体験 6				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	9	構成的グループエンカウンター リーダー体験 7				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	10	構成的グループエンカウンター リーダー体験 8				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	11	構成的グループエンカウンター リーダー体験 9				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	12	構成的グループエンカウンター リーダー体験 10				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	13	構成的グループエンカウンター リーダー体験 11				ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
	14	ピアヘルパーワークブック 確認問題				ハンドブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ	
15	ピアヘルパーハンドブック確認問題						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業への参加状況(グループワーク時の発言)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	ワークショップ		○		○		50%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤 I (基礎)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	萩尾浩之		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	精神科病院PSW		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	精神障がいのある人への支援において、精神保健福祉士はどんな役割を果たすのか、またどのような考え方で相談援助(ソーシャルワーク)を行うのかを学ぶ。 さらに、精神障がい者を取り巻く現状、過去の施策などを学び、未来に向けて精神保健福祉士としてどのような専門職になるのかを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					精神保健福祉士の役割について理解する	
	○					精神保健福祉制度について理解する	
		○				精神障がい者がおかれている現状を理解する	
	○					精神医療について理解する	
	○					精神障害者福祉施策の歴史を理解する	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	精神保健福祉士の役割と意義/精神保健福祉士制度化の歩み				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	精神保健福祉士誕生の背景/ビデオ視聴「私の声をきいてください」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	映画鑑賞「ビューティフル・マインド」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	映画鑑賞「ビューティフル・マインド」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	精神医療福祉の改革ビジョン/ビデオ視聴「工賃アップ大作戦第2段」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	自閉症について ビデオ視聴「未来へのキックオフ 精神障がい者のフットサルチーム」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	ビデオ視聴「バリバカンパニー」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	ビデオ視聴「幻聴さんとくらす べてるの家の奥深い世界①」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	ビデオ視聴「幻聴さんとくらす べてるの家の奥深い世界②」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	ビデオ視聴「シリーズ「作業所時代」①」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	映画鑑賞「シンプルシモン」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	映画鑑賞「シンプルシモン」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	ビデオ視聴「見え始めた精神医療」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	テスト対策/ビデオ視聴「見え始めた精神医療」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	授業感想(小レポート)		◎				20%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	5回以上欠課した場合は単位認定(評価)を行わない						

科目名	人体の構造と機能及び疾病						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年						
授業概要	少子高齢化の日本の現状において、福祉系職種も適切なソーシャルワーク、ケアマネジメント、地域ケアのコーディネートによって医療職種との連携が必須となっている。多職種協働を目指すために、この授業では、医学に関する基本的知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		人の成長・発達と老化の特徴を学び、説明することができる。	
	○	○		○		身体の構造と心身の機能を学び、説明することができる。	
	○	○		○		代表的な疾病、障害を学び、利用者の状態を理解できる。	
	○	○		○		医療の現場の状況を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座(人体の構成と機能及び疾病) 社会福祉士ナビ 医学一般 からだの事典 国試対策問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス 自己紹介 授業の進め方 医療と福祉			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	人の成長・発達と老化① 身体・精神の成長と発達			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	人の成長・発達と老化② 加齢による身体機能の変化			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	身体構造と心身の機能 身体の全体像 疾病の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	身体構造と機能 血液 循環器系			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	血液・循環器系のおもな疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	泌尿器系の構造と機能とおもな疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	呼吸器系の構造と機能とおもな疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	消化器系の構造と機能とおもな疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	神経系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	神経系のおもな疾患と障害・難病			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	内分泌系の構造と機能とおもな疾患及び代謝疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	支持運動器の構造と機能とおもな疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	感覚器系の構造と機能 感染症			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	後期授業のふり返り						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)宿題を出す。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	宿題・レポート	○	○		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						